公益財団法人 日本ハンドボール協会編　平成25年 12月1日発行（毎月1回1日発行）通巻540号

ハンドボール

特集

2019女子世界選手権 日本開催決まる

第68回国民体育大会

第5回女子ユースアジア選手権

12 5

DEC.2013 No.540

［表紙写真］第68回国民体育大会、少年男子優勝・岩手の安倍竜之介選手（左）、少年女子優勝・香川の谷華花選手：写真提供・スポーツイベント社

公益財団法人 日本ハンドボール協会

http://www.handball.jp/

toto FOR ALL SPORTS OF JAPAN

新会長に聞く

公益財団法人 全国高等学校体育連盟 会長
小野　力 氏（神奈川県立横浜平沼高等学校 校長）

全国高等学校体育連盟（以下「全国高体連」という）は昭和23年6月に創設され、昭和38年に第1回全国高等学校総合体育大会を開催した。また、ハンドボールを始め各競技専門部が誕生し、各種の競技大会が全国規模で開催されるようになり、平成13年3月9日、全国高体連設立の趣旨を踏まえ、全国高校総体をはじめとする各種大会の一層の充実・発展を目指し、50数年の歴史を持つ全国高体連を財団法人化した。そして平成24年4月1日、内閣府より認定を受け、公益財団法人としてさらに新たなスタートを切った。現在は、約120万余の高校生が都道府県高等学校体育連盟に登録し、全国高校総体をはじめ各種の大会で日々の練習の成果を発揮している。

その全国高体連は平成25年10月11日、新会長に神奈川県高体連会長で横浜平沼高の小野力校長が同日付で就任したと発表した。平池徳見前会長が、自身が校長の高校で体罰があったことを理由に辞職したことによる就任であり、任期は2015年5月までとしている。今般、新会長に就任された小野会長に、就任の抱負や今後の取り組み等について伺う機会を得た。

―突然の会長就任となりましたが、就任の抱負を伺います

予想だにしない就任要請であり未だ一ヶ月経過していない現在は、全体の状況を把握しようとしているのが昨今です。改めて抱負とすれば、全国高体連の設立の目的である、「高校生の健全育成を目指す」「競技力の向上」「生涯スポーツ実践の基礎づくり」を再認識したうえで、敢えて言えば、高校生一人ひとりが生き生きと夢をもって生活することが何よりも大事であり、個々人の個性を伸ばし、たくましく生きる力を付けてもらいたいと思います。

―最近の新聞などの報道でも学校内に体罰は未だに有る記事も散見されますが、全国高体連では暴力行為根絶に向けたスローガンとして、「体罰根絶！　しない　させない　許さない」を宣言されています。体罰根絶に向けた現状や取り組みについて伺います

全国高体連の大きな課題である「体罰根絶」に向けては、平成25年4月に他のスポーツ関連団体と協力し、「スポーツ界における暴力行為根絶宣言」を出し、その中で独自に行動宣言を示しました。しかしながら、ご指摘のように運動部活動内での体罰が散見されるのは非常に残念なことです。従って、体罰に関して敢えて全国共通の問題として捉え直し、共通して指導できそうな箇所を、全国共通のルールとして設定し、この共通理解に立った上で全国を挙げて根絶への指導ができれば、より一層の効果があるのではと考えています。その為、全国高体連内に検討組織を作り早急に結論を得られるよう取り組む予定です。このことが社会に向けた発信ともなり、広く賛同が得られる行動をしていきたいと思います。

―組織の課題と方向性について伺います

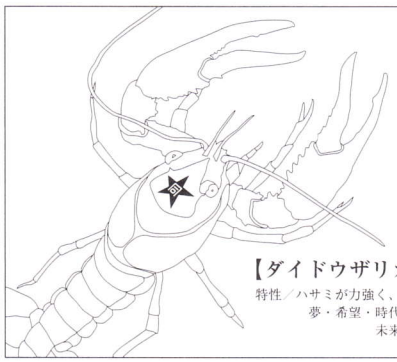
「体罰根絶」以外の課題として現在目の前にあるのは、2020年開催の高校総体です。東京オリンピック・パラリンピックの競技日程（7月下旬から8月上旬）は、日程が重なるだけでなく、**最も深刻なのは宿泊施設の確保が難しいということです。**高校総体は、複数の都道府県の協力で実施されており事前の調整で、オリンピックyearに開催される大会を**確実に実施していきたいと考えております。**高校総体も競技種目が増え、開催費用の見直しや圧縮も課題ではありますが、高校総体の価値をあげる取り組みや努力を続けることも大切であると認識しています。

―ハンドボール競技との関わりを伺います

神奈川県にはハンドボール指導に熱心な先生方が大変多く、旧来より親交を深めております。又、現在勤務の横浜平沼高校はハンドボールの歴史が深く、今年発行された「日本ハンドボール協会創立75周年記念誌」の中でも、“1930年（昭和5年）横浜第一高等女学校（現・横浜平沼高校）がハンドボール部を発足させていたという情報（同校同窓会報「真澄会報」（2011年9月）を得たが、対外試合が行われたかは詳らかではない”と記載されており、改めて同部の現在までに至る歴史の重さを痛感しています。又、2年前に岩手で開催の高校総体ハンドボール競技に神奈川県出場チームの応援に駆けつけ、岩手県関係者始め多くのハンドボール関係者と知り合うことができたことは財産です。

―ハンドボール界への要望を伺います

一時期には、マスコミでも選手が取り上げられハンドボールが盛り上がったのを記憶していますが、常時、マスコミでも話題になる様な選手やチームの育成、又、国際試合での戦績も気になるところです。高校生の部活動離れが進む中、どの競技にも言えることですが、指導者の育成と絶対数の確保は必要ではないでしょうか。神奈川県で見ても指導者が居れば部活動ができる環境は多々あり、これから教員を目指す若い方々に大いに期待したいところです。最後に、2019年の女子世界選手権、2020年のオリンピックに向け、ハンドボール競技の益々の発展を祈念しています。



ツカムチカラ

大同には“ツカムチカラ”がある　大同特殊鋼
www.daido.co.jp